

西北部カリブーの群れの減少続く ピーク時の3分の1の個体数に



アラスカ州魚類狩猟局が発表した新しい数値によると、世界最大のカリブーの群れの1つが長期的な個体数の減少を続けていることが明らかになった。西北部カリブーの群れは164,000頭まで減少し、昨年の個体数から24,000頭、2000年代初めのピーク時の約3分の1にまで減少した。

記事参照：Western Arctic Caribou Herd decline continues, bringing population to a third of peak size - ArcticToday (2022.11.8/Arctic Today)



冷酷が必要となる時 ノルウェーの町は、ロシアとの 姉妹都市提携を解消するのか？



11月2日、ソル＝ヴァランゲル市議会は、ロシアの3つの町との姉妹都市提携を解消するという保守党の提案を検討した。そのうちの2つ、ペチェンガとセベロモルスクはムルマンスク地方にある。協力の基礎はミハイル・ゴルバチョフの時代に築かれ、この協力は1990年代にはかなり成功したが、今日のロシア国家は対応できないような状態になっているという。

記事参照：A fiend in need. Will Norwegian towns give up twinning ties with Russia? | The Independent Barents Observer (thebarentsobserver.com) (2022.11.10/The Barents Observer)

← Caribou from the Western Arctic Caribou Herd prepare to swim across the Noatak River, heading south on their fall migration in a 2006 file photo. At the time, the herd numbered more than 300,000 animals. Now its population is a little more than half that. (Mike Thompson / National Park Service)

アラスカ石油リース販売 ノース・スロープとボーフォ ート海に500万ドル超の落札



アラスカ天然資源省は、北極圏の国有地での石油探査の権利を与えるリースに、企業が500万ドル以上を投じたと発表した。石油ガス局が年に一度開催する2022年北極圏全域リースセールが目玉で、61区画に63件の入札があり、121,412エーカーに450万ドル以上の高額入札が提示されたと同局は発表している。同時に行われた州ボーフォート海のセールでは、17,212エーカーの沖合いで575,146ドルの入札が行われたという。同局は声明で、この速報値は州経済と州所有の石油資産勘定であるアラスカ恒久基金にとって良いものであると宣伝している。記事参照：Alaska oil lease sales draw more than \$5 million in bids for North Slope and Beaufort Sea - ArcticToday (2022.11.15/Arctic Today)

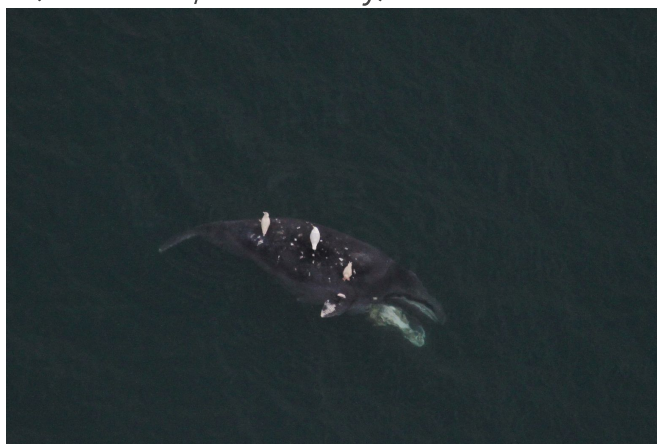
カナダ連邦大臣 ヌナブトの鉱山拡張を却下

連邦北方問題大臣Daniel Vandalは、Baffinland Iron Mines Corp.が計画していた鉄道建設とMary River鉱山からの年間出荷量を2倍にする計画を拒否した。「オタワが北部での資源開発プロジェクトで先住民族国家や先住民族政府を制圧する時代は終わった」と、VandalはNunatsiaq Newsのインタビューで語った。記事参照：Canadian federal minister rejects Nunavut mine expansion - ArcticToday (2022.11.17/Arctic Today)

ボーフォートとチュクチで死 亡したホッキョククジラ 北極圏でシャチの存在感が増 していることを示す



北極海域をより遠くまで泳ぎ、1年のうちにより長い期間滞在するようになったシャチが、アラスカのホッキョククジラを捕食することが増えているという新たな兆候がある。新たに発表された研究によると、この地域で特に暖かかった2019年は、シャチに狙われるホッキョククジラにとって特に危険な年でもあった。この年、チュクチ海東部とボーフォート海西部で11頭のホッキョククジラの死体が発見され、そのうち7頭はシャチの犠牲者と確認され、その他は原因が未解明であった。2009年から2018年までの過去10年間に同地域で浮遊または漂着したホッキョククジラの死骸は33体であったことと比較すると、その差は歴然だ。記事参照：Dead bowheads in Beaufort and Chukchi point to increased killer whale presence in Arctic - ArcticToday (2022.11.17/Arctic Today)



A 2015 bowhead calf carcass provided some of the earliest direct evidence of killer whale predation on a bowhead whale in the U.S. Arctic. (Lisa Barry / NOAA / NMFS / AFSC / MML)

EUの禁輸措置が近づく中、ロシアのタンカーが中国への北極航路を試験航行

普段はLukoil社の極北のオイルターミナルであるVarandeyとムルマンスクを行き来しているオイルタンカーが、今週黄海を航行し、日照市の町に寄港した。同船はロシアの海運会社Sovcomflotが所有・運航しており、北極圏の過酷な環境下での航行を想定した氷上等級Arc6の船である。この船は北極圏の厳しい環境下でも航行できるように設計されているが、このような輸送を行うのは今回が初めてとなる。航海はEUがロシアに対する石油輸出禁止措置を導入するわずか数日前に行われた。今年6月に採択された欧州委員会の第6次制裁措置によると、12月5日からロシアからEUへの原油および一部の石油製品の購入、輸入、移動がすべて禁止されることになる。EUを最重要市場とするロシアの石油産業にとって、この禁輸措置は深刻な問題を引き起こす。

記事参照：As EU oil ban approaches, a Russian tanker tests Arctic route to China - ArcticToday (2022.11.18/Arctic Today)



The tanker Vasily Dinkov has sailed from Murmansk to the Chinese port of Rizhao with a shipment of oil. (ABB file photo via The Independent Barents Observer)

北極圏の動物がアラスカ内陸部でよく知られる病気：野兔病に感染 追跡研究



ホッキョクグマを含む北極圏の様々な動物が、通常ウサギやノウサギに関連するダニ媒介性の病原体に曝されていることが、新たな研究によって明らかになった。この研究結果は、温暖化する北極圏でこの病気が北上すると予想されるため、科学者の追跡に役立つと考えられる。

記事参照：Study tracks Arctic animals' exposure to disease better known in Interior Alaska: tularemia - ArcticToday (2022.11.23/Arctic Today)

スヴァールバル諸島周辺の北極圏の海底の大部分 トロール船によって損傷



ノルウェー海洋研究所によると、遠隔操作水中車（ROV）を使って行われた調査で、海底の広い範囲にわたりトロールバッグでできた深い傷が確認された。漁船がエビや等の海洋生物を捕獲するためにトロールバッグを海底に引き込むとこのような被害が発生し、地域の海洋生物に劇的な影響が出る。海底に生息する種の多くは絶滅の危機に瀕しており、外圧に対して非常に脆弱であると、海洋研究者は指摘する。

記事参照：Large areas of the Arctic seabed around Svalbard are damaged by trawlers - ArcticToday (2022.11.29/Arctic Today)

プーチン 原子力砕氷船の打ち上げでロシアの「北極力」を誇示

プーチン大統領は12日、西北区の通年航行を確保するための原子力砕氷船2隻の旗揚げ式とドック進水式で、ロシアの北極力を誇示した。ビデオ回線を通じて司会を務めたプーチン大統領は、こうした砕氷船は国にとって戦略的に重要であると述べた。「両艦は、大規模な連続プロジェクトの一環として建造され、北極圏の大国としてのロシアの地位を強化するために、国内の砕氷船隊の再整備と補充を行う大規模かつ体系的な作業の一部だ」。北極圏は、気候変動の影響により氷冠の減少が新たな航路を開くため、戦略的重要性を増している。ロシアの北極圏には、ヤマル半島の液化天然ガスプラントをはじめ、膨大な石油・ガス資源が眠っている。記事参照：Putin touts Russia's 'Arctic power' with launch of nuclear icebreakers - ArcticToday (2022.11.22./Arctic Today)

巨大な光ファイバーケーブル計画に対するヌナブト州の懸念に答える企業



ヌナブト影響審査委員会は、高緯度北極圏に光ファイバーケーブルの敷設を計画しているFar North Digital LLCに対し、12月6日までに政府の懸念に対する回答を提出するよう命じた。Far North Digital LLCとカナダの関連会社 True North Global Networks LPは、フィンランドのネットワークプロバイダーであるCiniaと提携し、日本から東にフィンランドまたはノルウェーまで14,000kmの光ファイバーケーブル敷設計画の一環として、ルート調査を申請している。そのうち、レゾリュート・ベイ、アークティック・ベイ、ポンド・インレットなどのコミュニティに近いヌナブト州北部を900kmのケーブルが通る予定である。記事参照：Company to answer Nunavut concerns over massive fiber optic cable plan - ArcticToday (2022.11.28/Arctic Today)

北極域は、気候変動の影響により大きな変化に直面しています。その変化は、自然環境のみならず、政治経済、社会、北極先住民及び住民の生活や暮らしにも及び、それらが複合的に絡み合った形で相互作用しています。こうした変化への適応、適応能力やレジリエンスの育成のプロセスは、複雑で予測困難な社会的課題であると同時に、現地住民のwell-beingを獲得するための機会となっています。

『北極域実践コミュニティ VOICES from the ARCTIC』は、北極域実践コミュニティの情報発信の活動の一環として、北極域の多岐にわたる社会的課題やその解決に向けた取組に関連するニュースを集めて、ダイジェストしたものです。北極域の社会的課題と世界的な課題との関連性を示すため、国際連合『持続可能な開発目標（SDGs）』の17の目標との対応関係を各ニュースに付しています。Vol.17は、2022年11月後半のニュースを掲載しています。

発行元：ArCS II 国際政治課題 北極域実践コミュニティ事務局
監 修：大西富士夫（北海道大学北極域研究センター）
E-mail：tdcop@arc.hokudai.ac.jp
WEBサイト：https://tdcop.arc.hokudai.ac.jp/

